

協議会名：犬山市地域公共交通会議

評価対象事業名：地域公共交通確保維持事業

令和8年1月 日

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
【補助対象となる事業者 名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内 容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業におい て、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購 入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、 離島航路に係る確保維持事業において離島航路 構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けて いる場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間 において、前回の事業評価 結果をどのように生活交通確 保維持改善計画に反映させ た上で事業を実施したかを記 載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に基づく事業が適切に 実施されたかを記載。計画 どおり実施されなかった場合 には、理由等記載】	A ・ B ・ C 評価	【計画に位置付けられた定量的な 目標・効果が達成されたかを、目標 ごとに記載。目標・効果が達成でき なかった場合には、理由等を分析 の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善 策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みに ついて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改 善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な 内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
犬山市地域公共交通会議	栗栖・富岡線		A	計画通り適切に実施された	B	利用者数【前年比:-110人】 R7事業年度:12,767人 R6事業年度:12,877人 令和5年12月の減便により、R5年度と比較す ると微減した。しかし、買い物・通院等移動が 必要な人の交通手段として一定の利用があり、 また、紅葉期間には寂光院への観光客 等により満車になる便もある。	【目標】 公共交通の総利用者数 11,680,000人/年 鉄道:名鉄各線の市内各駅乗降者数 路線バス:岐阜バス「リトルワールド・モン キーパーク線」「明治村線」 わん丸君バス:全路線 タクシー:犬山タクシー(株)の年間利用者数 【目標に対する考察】 コロナ禍における減少率は約20%減でとど まり、コロナ禍においても移動が必要な人の 交通手段として機能した。その後、徐々に利 用者数は回復傾向に転じ、R5事業年度では 過去最高の乗車人数となった(116,185人)。 しかし、令和5年12月の再編における全路線 減便の影響により再度減少に転じた (110,819人)。主に夕方の時間帯を減便した ため、通勤・通学での利用者が減少したもの と考えられる。 今後の継続運行実施のためにも、高齢化 や運転免許証自主返納の動きにより需要の 増加が見込まれる高齢者への対応だけでは なく、通勤・通学や観光客への対応等、様々 な観点から更なる情報発信や利用促進を 図っていく必要がある。
	上野線	コロナ禍以降、利用者数は 徐々に回復傾向にある。高 齢化や運転免許証自主返納 等で需要の増加が見込まれ る中で、今後は通勤・通学や 観光客等、移動ニーズの多 様化が想定されるため、様々 な観点から更なる利用促進 を図る必要がある。	A		A	利用者数【前年比:+783人】 R7事業年度:18,496人 R6事業年度:17,713人 コロナ禍や令和5年12月の減便においても利 用者数は減らず、年々増加している。高齢化 に伴う運転免許返納等により、買い物・通院 等移動が必要な人の利用が増加しているこ とが要因の一つと考えられる。	
	今井・前原線	【対応策】 ・岐阜バス「明治村線」減便 により、通勤・通学に使用が 生じたため、事業者協力型で の公共ライドシェアの実施し た。	A		B	利用者数【前年比:-872人】 R7事業年度:19,076人 R6事業年度:19,948人 令和5年12月の再編で、夕方の時間帯が減 便となり、通勤・通学での利用者減少につな がった。	
	楽田東部線	・運転手の労働環境改善の 観点で、休憩場所やトイレの 確保を実施した。 ・高齢者タクシー補助制度を 段階的に拡充することで、地 域特性(道路幅など)によりわ ん丸君バスでカバーできない 地域の移動手段の確保を 図った。	A		A	利用者数【前年比:+420人】 R7事業年度:6,079人 R6事業年度:5,659人 令和5年12月の再編で減便しているが、買い 物・通院等移動が必要な人の交通手段とし て一定の利用があるため、前年比で増となっ た。	
	善師野・塔野地線	・商業施設等と連携し、わん 丸君バスにおけるデジタルチ ケットの導入した。 ・地域のニーズを把握するた め、意見交換会や出前講座 を実施した。	A		B	利用者数【前年比:+913人】 R7事業年度:14,155人 R6事業年度:13,242人 令和5年12月の再編で、夕方の時間帯が減 便となり、通勤・通学での利用者が減少した (R5事業年度:15,889人)が、高齢化に伴う運 転免許返納等により、買い物・通院等移動が 必要な人の利用が増加している。	
	内田線				A	A	